

発行 マルクス主義同志会
発行所 全国社研社

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409
TEL/FAX 03(6795)2822 郵便振替 00120-6-166992
定期購読料(送料共)1年分=開封2000円 密封2500円
HP=http://www.mcg-j.org/ Eメール=webmaster@mcg-j.org

海つばめ

★自民党と反動の改憲策動、軍国主義路線を断固粉碎しよう！
★「搾取の廃絶」と「労働の解放」の旗を高く掲げよう！
★「労働者党の再建」と「国政への復帰」を勝ち取ろう！

同志会13年の闘いを止揚して 労働者党再建と国政選挙再挑戦を決定

労働者、勤労者の皆さん。ありません。

私たちは今年3月から5月にかけての、マルクス主義同志会第12回大会で、2003年以来の13年間にわたる、同志会のサークル的な活動に終止符を打ち、それを未来に向けて止揚し、再び労働者党を再建し、また同時に、国政選挙闘争に――そして行くは国会での議会闘争に――復帰し、再挑戦することを決定しました。なぜ私たちはそうした決定を行ったか、そしてその意義は何か、私たちの覚悟はどうかについてまず語りたく思います。

私たちが新しい闘いの方向を決定するのは困難な過程を経てのことでした。3月末の大会では結論を出すことができず、2ヶ月間、さらに同志会内の議論を深めて、ようやく5月末の統開大会で新しい闘いについて意思を一致させることができたのです。

しかし私たちはあらゆる困難と障害を克服し、突破して、2017年の春には労働者党を再建、再組織し、再び公然たる政治闘争に、議会・選挙闘争に復帰し、再挑戦することを決意し、決議したのです。

必ずしも13年前に社労党から同志会に移行したときよりの組織的、物理的に強大化したということではありません、むしろその面からいえば、若者の結集は少なく、全体の組織的力量は後退しているというしか

主観的に墮落し、20年前に滅びてしまいました。共産党もまた今、社会党と同様、頽廃(たいはい)と日和見主義を深め、最近では幼稚な市民主義に追随し、今回の参院選では、とうに破産している民進党の卑屈なたいこもちの役割を買って出るまでに腐っただけなく、自衛隊や日米安保や天皇制の容認まで口にし、あげくの果ては安倍政権と本質的に同じケインズ主義的政策(国家金融や財政を通じての「需要」喚起策、要するに「ラマ政策」)を持ち出すだけの最低の半デマ政党としてしか存在していません。

他方私たちは過去数十年、社共という「右の日和見派」(「新左翼 諸派等々」)の政治的、経済的情勢――資本主義世界の腐朽・頽廃の深化や、世界中における危険な民族主義、国家主義の台頭や新しい帝国主義の勃興等々――の中で、労働者階級の断固たる闘いを鼓吹し、その先頭に立つべく、政治的な進出を図り、公然たる闘いを再開すべきであると考えたのです。

そしてまた、間違つて労働者党といわれている政党(解体した社会党や共産党のプチブル的、ブルジョア的墮落(だらく)の深化という、もう一つの決定的な問題もありました。

戦後「社会主義」政党として闘ってきた社会党は、ますます平和主義的、市民

かつて闘いを止めたのは、私たちが闘う意思をなくしたからでも、諦(あきら)めたからでもありません。再び闘うためには、私たちの組織的、物質的、さらにイデオロギー的基礎を再検討し、戦線を整える必要を感じたからです。

私たちは新しい労働者、勤労者の党の公然たる再登場の巨大な意義を強調し、全国の心ある全ての労働者、勤労者の、青年たちの総結集を呼びかけます。

労働者の団結こそ力であり、そうした団結なしには労働者階級の利益や権利を守り、さらにその未来を切り開いていくことはできないのです。

そして労働者の団結の最高の形態こそ、労働者党への結果であり、そうした形での結束した、何ものにも敗北することのない組織的闘いです。

労働者階級の闘いは日々、経済状態を改善するため

私たちがかつて「高度経済成長」末期と資産バブルの時代、社労党(社会主義労働者党)等を組織し、17年間にわたって、衆参の国政選挙に8回、地方選挙にも4回参加するなど、公然たる政治闘争の舞台上にあり、ブルジョア政党、小ブル政党に反対し、広汎な労働者、勤労者に訴え、その利益と未来のために闘い抜いてきました。

しかしこと志に反し、私たちの果敢な闘いは挫折し、「刀折れ、矢尽きて」、一旦は闘いの火(ほこ)を納めざるを得ませんでした。合計1億円にも達する供託金の重みは、私たちのような小政党の闘いを押しつぶし、その継続を不可能にするに十分でした。

労働者の新たな闘いを作り出そう！――我々の決意

この『海つばめ』特集号は、私たちが、つまりマルクス主義同志会が全国的に配布しているピラです。我々は小さなサークルですが、一昔前には、全国で時や、すでに破産を黒田自身が認めた「金融緩和」等々が続き、国政選挙を十数年にわたり闘った労働者、勤労者の政党でした。その闘いや歴史については、このピラの冒頭の記事に詳しいので一読して下され。

このピラは私たちの機関紙――に逃げ込むなど、頽廃と無力をさらけ出す野党「民・共」『海つばめ』に掲載された、最近何号かの記事から作られています。

私たちの考えや政治路線や政策について、この『海つばめ』紙面の記事から読み取って下さるの闘いを発展させて行くことを決意しました。

この『海つばめ』特集号は、私たちが、つまりマルクス主義同志会が全国的に配布しているピラです。我々は小さなサークルですが、一昔前には、全国で時や、すでに破産を黒田自身が認めた「金融緩和」等々が続き、国政選挙を十数年にわたり闘った労働者、勤労者の政党でした。その闘いや歴史については、このピラの冒頭の記事に詳しいので一読して下され。

このピラは私たちの機関紙――に逃げ込むなど、頽廃と無力をさらけ出す野党「民・共」『海つばめ』に掲載された、最近何号かの記事から作られています。

私たちの考えや政治路線や政策について、この『海つばめ』紙面の記事から読み取って下さるの闘いを発展させて行くことを決意しました。

野党共闘の現実 有権者裏切る結果に帰着

「野党共闘」を美化するきれいな言葉に振りまかれて、その現実を少しでも検討してみれば、実際に、それがどんなものとして存在しているかがたちまち明らかになる。

一人区の「共闘」ができた大成功だと言われているが、実際には、民進党候補を応援できない共産党の地方組織もあれば、反対に、共産党が唯一候補者になった香川の民進党勢力は、共産党候補の推薦をしない決定し、共産党候補を担いでいるからか、本来自民から出てもおかしくない。

私たちが安倍政権がいつまで居座り、日本の国家や経済や社会を破壊しかねない政治や政策を。我々は小さなサークルですが、一昔前には、全国で時や、すでに破産を黒田自身が認めた「金融緩和」等々が続き、国政選挙を十数年にわたり闘った労働者、勤労者の政党でした。その闘いや歴史については、このピラの冒頭の記事に詳しいので一読して下され。

このピラは私たちの機関紙――に逃げ込むなど、頽廃と無力をさらけ出す野党「民・共」『海つばめ』に掲載された、最近何号かの記事から作られています。

私たちの考えや政治路線や政策について、この『海つばめ』紙面の記事から読み取って下さるの闘いを発展させて行くことを決意しました。

飛耳長目

★リノナー・マナーの論議が盛んである。単に理論問題としてではなく、実践課題としてであるから恐ろしい。資本の勢力の究極的頽廃の現れとして関心を呼ぶ★ヘリコプターマネーの本質は、現代資本主義の下で「通貨」として機能している中央銀行券を紙幣に転化し、あるいは置き換える、あれこれの方法である。もちろん日本の日銀券もすでに半ば紙幣に転化しており、ますます転化している★例えば政府は国民の全ての預金口座に政府紙幣などを無償交付するというのだが、金額を問わないのだから、どんな人も生産しないで消費し、「遊んで暮らせる」ことになる。この紙幣の「財源」は中央銀行券の引き受けるゼロ金利の永久国債だそうだが、つまり紙幣を無償に無償交付するということが★こんな途方もない政策が、デフレが長期停滞だ知らないが、それを克服するために必要だということだ。とにかく「需要」不足が経済衰退の原因だから、こんな形で「需要」を無償に作りだせば、資本主義が救われるという妄想である。これが根底から矛盾したパカ話であることは、経済学など全く知らない人にさえ瞬時に理解できる★しかし似たようなことが今や日本でも世界の多くの国でも行われているのが、現代の資本主義の実際である。まさに「死滅しつつ」ある資本主義である。(鵬)

昨年12月、電通に入社して一年の24才の女性が過労自殺した。厚生労働省が実態調査に乗り出しているが、彼女の労働条件は超過勤務が月105時間にも達したとか、連続53時間の拘束労働があったとか、常識外れの悲惨なものだった。まさに資本による殺人ではない。

主張

常態化する長時間労働 搾取労働の空恐ろしい現実

彼女は母子家庭で、親に薬をさせようと猛勉強して大学に入学、卒業して働き始めたばかりであったが、搾取企業の狂暴な仕打ちに会い、半ば正常ならざる精神状態や鬱病に追い込まれ、自ら命を絶したのである。

電通は同じような過激労働を新入社員に強要し、自殺に追い込んだ事件が25

問題は天皇制そのものに 朝日らは天皇一家を美化するな

崇仁(たかひと)が亡くなった。我々は三笠宮という呼称は使わない、というの、「宮様」といった、憲法違反——というのは憲法は、出生による国民差別を禁じているからである——の差別用語を嫌うからである。そして天皇一家は「国民」ではなく、また姓がないのだから、崇仁と呼ぶしかないのであって、呼び捨ては失礼とかいう問題ではない。そもそも「天皇家」に問題があるのである。

彼は、敗戦後には(決して何百万もの国民が無意味に死んでいった、1945年8月15日以前のことではない)、太平洋戦争や15年戦争に深い「悔恨」や「反省」の気持ちを抱き続けていたとか、日中戦争(当時の日本側の呼称、「支那事変」)に日本軍の南京総司令部の参謀として派遣されて、「皇軍」の腐敗を目的の当りに見て怒り、「反民衆は絶対不可だ」、「中国の軍隊にも劣る」と叫んだと言われる。そしてまた敗戦後、1937、8

年頃(つまり南京事件の頃、現地で)、陸軍士官学校の同期生等が、つまり陸軍の指導的な連中が、「兵隊の胆力を養成するには生きた捕虜を銃剣で突き刺させるに限る」と自慢げに豪語したことや、多数の中国人捕虜を毒ガスの実験に使ったことなど、南京事件と関係するものは中国のどこに上りてあり、デマだといった、安倍一派や国家主義の反動等の一切の汚い歴史の偽造発言を、正真正銘のデマゴギーを粉砕し、一掃していることを、まず言うておかなければならない。

「昭和十五年に紀元二千六

「厚生労働省がまとめた『過労死等防止対策白書』の勧告後のことであって、企業は事実上、勧告など全く意に介さなかったことが暴露されている。」

「厚生労働省によると、過重労働の撲滅に重点的に取り組み始めた2015年4月から12月までに立ち入り検査調査をした8530事業場のうち、半数を超えて4790事業場に対し、違法な時間外労働があったと認定し、是正勧告書を交付し、労働者にさらされている事実を教えている。」

「長時間勤務の抑制などの取り組みをしてきた」とい(日経新聞10月19日)ように書かざるを得ないのである。

「反動の、つまりごくつぷる産経新聞でさえ、次のように書かざるを得ないのである。」

「厚生労働省がまとめた『過労死等防止対策白書』によると、昨年度に過労自殺(未遂も含む)で労災認定されたのは93件だったが、勤務問題を原因の一つとする自殺は2159件にのぼった。労災認定は氷山の一角ともいえる。」

同省の企業アンケートでは、残業時間が月80時間を超えた社員がいる会社は2割を超えていると主張し、搾取労働と差別労働の即時一掃を呼びかける。

そして長時間労働、搾取労働の一掃なくして差別労働の廃絶はなく、また差別労働の廃絶と結びつけられ、一掃もなしと強調する。

これは何か偶然的、部分的の、あるいは一時的の現象といったものではない。

非正規労働者の大群、差別労働の跳梁跋扈(はっご)と共に、正規労働者の、否、労働者全体の上に重くのしかかる長時間労働は直ちに一掃されるべきである、さもなければ日本の労働者階級は滅びるしかない。

我々は「労働の解放」こそ労働者全体の緊急の課題であると主張し、搾取労働と差別労働の即時一掃を呼びかける。

そして長時間労働、搾取労働の廃絶はなく、また差別労働の廃絶と結びつけられ、一掃もなしと強調する。

百年に盛大な祝典を行った日本は、翌年には無謀な太平洋戦争に突入した。すなわち、架空の歴史を信じた人々は、また勝算なき戦争を始めた人々でもあった。

「何という、不忠の、輩(やから)であり、いい加減な『臣』であることか。彼らの『信念』からするならば、万死に値する、あるいは切腹ものではないのか。」

そしてまた、崇仁は、歴史家として、天皇家の万世一系という神話に懐疑的であり、あるいは紀元節復活運動に批判的で、そんなものを持ち出す安倍一派や「日本会議」につながるようなクス連中については、「昭和十五年に紀元二千六

働く者の中央セミナーにご参加を

テーマ 崩壊する資本主義と「資本論」

― 共産党の「民主的改良」路線を問う ―

資本主義の危機が深まる中、労働者はどう闘うべきでしょうか。共産党は必要の拡大等「民主的改良」を追求しています。そしてそのために『資本論』の間違った解釈、曲解にふけています。徹底的に議論して闘いの道を明らかにして行きましょう。

★12月25日(日)午後1時半

★目黒区田道ふれあい館(JR・地下鉄目黒駅徒歩10分)

★主催・セミナー実行委員会

典型的な自由主義的皇族の一人に数えられているや、崇仁であろうと、濃淡のいや厚顔無恥の多少の違いがあるとも共通である。

天皇一家の一部は良(おそれ多くも)自由主義的であらせられ、それ故に「筋金入りの」天皇制主義者たち、ファシストたちをしばしば幻滅、失望させ、あるいは時には反発や、恨みや憎しみさえも買ったのである(天皇一家がもつとも恐れられた連中の中に、軍部の一部やファシストらの「真性」の天皇制主義者が含まれたことほどの皮肉や茶番はないが、これもまた、天皇制の本性を鋭く暴露している)。

15年にもわたる日本のブルジョアや軍部のアジア太平洋戦争(帝国主義戦争)の間、彼らの一部はそんな現実、部分的に、批判的であり、あるいは否定的であった——もちろん他の一部の皇族は十分に帝国主義的、「好戦的」であり、積極的に軍部と協力した——、しかしそれは彼らが天皇家としては、全体として、最初から最後まで、

「国民と共に」、労働者、勤労者と共にではなく、軍部や好戦的なブルジョアたちと共に——あるいは、その先頭にさえ立って——、国民を鼓舞し、叱咤激励して反動戦争に駆り立て、国体のために、天皇一家と天皇のために死ねと叫んだことは余りに明白な事実であった(彼らは、国民に「自分たちのために死ね」と直接言ったことはないが、今さら弁解するかもしれないが、軍部や政府がそう叫ぶのには、自ら進んで何一つ抗議せず、野放しにしたのだから同じ

《同志会の出版物の紹介》

機関紙 (隔週刊)

『海つばめ』

〈政治、社会などの根本問題、労働者の困難な状況や闘いについて鋭く論ずる〉

1部50円 1年開封・2000円(送料共)

理論誌 (不定期刊)

『プロメテウス』

57号 特集・社会保障の限界と欺瞞

55/56号 労働時間による分配とは何か

〈単行本〉 (送料はいずれも180円)

アベノミクスを撃つ 2000円

鳩山政権の9ヶ月 1800円

申し込みは全国社研社へ (連絡先は表面題字右側、HP、Eメールも)